

This is a newsletter from Shinshu University International Center (SUIC)
In case this email newsletter is unreadable, please try the online version
<http://isc.shinshu-u.ac.jp/magazine/index.htm>

— Vol. 4 — 2006. 4. 21 —

■ □ 信州大学国際交流センター ニュースレター □ ■

Shinshu University International Center (SUIC) Newsletter

■ 発行：信州大学国際交流センター(SUIC)
<http://isc.shinshu-u.ac.jp/flashindex.htm>

- ▼△ 今号のもくじ △▼
- ・ ごあいさつ
 - ・ 最近の出来事
 - ・ 信大NOW38号
 - ・ 高石先生ご退職のお知らせ
 - ・ 信州生活ちょっとコラム（生活編）
-

…☆…☆…☆…☆… 修了者データベース登録のお願い …☆…☆…☆…☆…

国際交流センターでは、留学生の帰国後のフォローアップの一環として、データベースの作成と活用をすすめています。
まだこのフォームを提出されたことのない方は、ぜひ記入にご協力ください。
また、このニュースレターの配信先メールアドレス変更もこちらからできます。

…☆…

■ □
□ ごあいさつ

新年度になりました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。
4月から新しい環境での生活を始められた方も多いかと思います。
私たちも「国際交流センター」として新しいスタートを切りました。
たくさんの新しい出会いを楽しみに、お互いがんばりましょう！

ここ、旭キャンパスも初々しい新入生を迎え、活気に溢れています。
特に生協周辺は桜の花びらの舞う中、部活やサークルの勧誘、教科書販売等もあってか、驚くほどの人口密度です。
平均年齢の若さといい、まるで渋谷並み?!（ちょっと言い過ぎ（笑））

桜が咲けば、お花見をしないではいられないのが日本人。
皆さんも、この季節はお花見に新歓にと忙しかったのでは？
私もこの週末は「新歓コンパ」と思われる信大生グループをあちらこちらで見かけました。

そんな学生たちを眺めつつ、遠い昔の学生時代の記憶をよみがえらせながら
桜の花の下で気持ち良くまどろんでいたら…
「おかあさん、おしっこー！」の我が子の声で現実に戻りました。トホホ^^;

■ □
□ 最近の出来事

▼ 国際交流センターが発足しました

▽ 信州大学国際交流センターの発足にあたって

国際交流センター長 唐澤 豊

信州大学は、教育研究の高度化、国際化を一層進めるために、従来、留学生関係と国際交流関係の業務を異なる組織で担当していた状況をあらため、国際交流に係る業務を一元的に扱う全学体制を整備し、強化することとし、留学生センターを改組して新たに国際交流センターを発足させました。

センターで扱う主な業務は、以下のとおりです。

- ①留学生、研究者の受け入れ、派遣支援、
- ②留学生の生活支援、相談業務、
- ③留学生に対する日本語教育、
- ④教養科目としての国際関係科目の開講、
- ⑤国際学術交流、国際共同研究の支援、
- ⑥国際交流に関する情報の収集、
- ⑦海外広報、
- ⑧帰国留学生のアフターケア、
- ⑨国際協力、国際貢献に関する支援、
- ⑩地域の国際化支援です。

これらの活動を通じて、信州大学の教育研究の高度化、国際化が一層進むことを期待しています。

▼ 信州大学のWebサイトが新しくなりました

信州大学の公式Webサイトがリニューアルされています。
新しいシンボルマークのグリーンを基調にしたデザインで、トップページには、
信大のキャンパスと信州の自然をイメージした画像が流れます。
15秒くらい目が釘付けになること請け合いです。

▼何はともあれ、今すぐチェック！
<http://www.shinshu-u.ac.jp/>

▼ ワイズメンズクラブ主催 信州大学新入学留学生歓迎会

7年前から続いている留学生を対象とした作文コンクール「アジア賞」で
おなじみの国際交流団体、松本ワイズメンズクラブさんの主催により
新入留学生歓迎会が、4/9（日）松本国際交流会館にて行われました。

初めての開催にも関わらず、60名もの留学生が参加し、会場は大変な
賑わいでした。ワイズメンズクラブ会長をはじめ、各役員の方々の挨拶に
続き、参加者1人ずつの自己紹介、留学生による各国の代表的な歌の披露
など、クラブの方々が心をこめて準備して下さったお茶とお菓子をいただき
ながら、和やかな交流のひとときを過ごしました。

クラブメンバーの皆さんの「困ったことがあればいつでも何でも相談して」
との言葉に、新入留学生たちも心強く感じていたようです。

また、国際交流会館へお米50Kgの寄贈もいただき、代表者は「とっても
嬉しいです！」と笑顔で挨拶していました。（本当に嬉しそうでした）
その後、みんなで仲良く分けられたかな・・・？^^

▼ オクラホマ州立大学への交換留学生の募集開始

前号でもお知らせしたとおり、米国のオクラホマ州立大学（以下OSU）との
大学間交流協定が2005年末に結ばれました。その後、学内で検討して「今年8月
からの信州大学の学生派遣」を決定しました。

これによって、これまで信大内では本当に不十分だった「英語圏の大学への交
換留学」のチャンスが大きく広がることになりました。2名の学生が2006年8月
14日から2007年5月5日までの一学年を、授業料は信大に払うだけで過ごすこ
とができます。

また、おとしから始まっている「7週間の夏季語学プログラム」は今年も継
続して実施されることになり（生協が主催）、信大生への海外留学支援は、
少しずつですが確実に進展してきています。

「留学による人生経験の広がり」は、信大にいた多くの留学生の皆さんが感じ
ていたことだと思います。それを日本人学生にも広めていきたいものです。

▼ 長野県国際交流協会（ANPIE）がアパート等契約時の保証人に

日本では、みなさんご存じのとおり、日本人、外国人を問わずアパートを借り
の場合、連帯保証人が必要になります。このために在学時には苦勞をされた方
もいらっしゃるのではないのでしょうか。

信州大学では、今まで留学生の皆さんが保証人を得られやすいよう、保証人に
対する補償がついた留学生住宅総合補償制度を皆さんにすすめてきましたが、
この4月から、長野市にある（財）長野県国際交流推進協会（Association of
Nagano Pref. for Promoting International Exchange, 通称ANPIE（アンピエ））

という団体が、長野県内で学ぶ留学生向けの住宅支援として、一定の条件でアパート等契約時の保証人になってくれることになりました。

新しい生活を始めるということは、それだけでも大きな負荷がかかるものです。それが少しでも軽くなるのは、大変ありがたいことですね。

▽(財)長野県国際交流推進協会(ANPIE)について
<http://www.anpie.or.jp/about/index.htm>

▼ 共通教育「国際開発論基礎」はじまる

本年度より、留学生センターから拡大発展し、国際交流センターになりましたが、その新規業務として「国際協力に関すること」があらたに設けられました。

その一環として、早速、共通教育の中で「国際開発論基礎」をスタートさせました。講師は、篠崎国際交流課長です。

内容は、日本ではこの言葉はあまりなじみのないものかもしれませんが、英語では通常Development Studies もしくはInteranational Development Studies と呼ばれているもので、貧困にあえぐ開発途上国の開発状況、経済成長論、先進国及び途上国の開発問題に対する取り組み状況、国際開発の理論的背景、日本の取り組み、ODA政府開発援助のあり方、などについての学問です。

参加者は当初センター側で見込んだ20-30名を大きく上回り、最初の講義には150名の参加があり、用意した資料が足りなくなるといった状況に。今の信大生の国際協力への関心の高さが感じられます。

■ □ 信大NOW38号のご案内

「信大NOW」は、信州大学のニュース、歴史や人にまつわる記事、イベントや公開講座の紹介や研究者の研究内容など「信州大学が良くわかる」広報誌です。

信州大学の公式Webサイト上でもお読みいただけますので、ぜひどうぞ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/html/now/>

★ 「信大NOW38号」ダイジェスト

■ TOPIC：信州大学のシンボルマーク決定！

前号でもご紹介した信州大学の新しいシンボルマークについて、そのコンセプトの説明と、デザインを手がけた長野県生まれ、南カリフォルニア在住のグラフィックデザイナー、林高太郎さんへのインタビュー。

信州の天空を雄々しく舞う鳥をモチーフにしたグリーンのシンボルマークに込められた意味、ぜひ一度は読んでみて下さい。

(参照) <http://www.shinshu-u.ac.jp/html/now/now38/2.pdf>

■ 特集2：学生レポート「雪」

▽雪のプロフィール

- ①理学部フィールドワークレポート（物質循環学科の基礎実習）
（実験1）雪の「おしな」を作ろう
（実験2）～積雪断面観測～積もった雪から分かること

- ②雪は天からの手紙 ～実習の文責と手紙から読み取れるもの～ 鈴木啓助教授

▽雪と暮らし

- ①豪雪の地域から「いいやま雪まつり」

今シーズン20年ぶりの大雪に見舞われ、被害も大きかった飯山市。そんな中でも恒例の「いいやま雪まつり」を決行した実行委員長の田中さんに、学生レポーターがインタビューしています。

- ②環境にやさしい「有機系融雪剤って、知っていますか？」

塩カルに代表される塩素系融雪剤につきものの塩害に対する対策として、工学部神田鷹久特任教授が参加、開発したという食品廃棄物を使用した融雪剤について。りんごジュースの絞りかすなどが原料になっている、というのが

いかにも信州？！

(参照) <http://www.shinshu-u.ac.jp/html/now/now38/3.pdf>

■Let's go! 公開講座 -----

▽人文学部：文化情報論フォーラム2006

2月10日～12日にかけて、松本市のMウィングにて開催された「文化情報論フォーラム2006」のプログラムダイジェスト。このフォーラムは人文学部文化情報論講座が1年間の成果発表の場として7年前から開催しているもの。ユニークな研究も多く、これを聞けば、今の若者文化への理解がすすむこと間違いなし？！

▽信州大学出前講座「地震と防災のはなし」・・・泉谷恭男工学部教授

信州大学が県内の公共機関を対象として行っている出前講座の紹介。
長野市の吉田老人福祉センターで行われた泉谷恭男工学部教授による講演には135人もの市民が参加し、「地震は必ずやってくる—まず備えを！」とのメッセージに耳を傾けました。近い将来、大地震の起こる可能性が高いと言われている長野県だけに市民の関心も高いことが伺われます。

(参照) <http://www.shinshu-u.ac.jp/html/now/now38/4.pdf>

■Information (イベント、公開講座などの案内・報告) -----

(参照) <http://www.shinshu-u.ac.jp/html/now/now38/5.pdf>

■(新)健康談話：「鳥インフルエンザ」

(参照) <http://www.shinshu-u.ac.jp/html/now/now38/6.pdf>

★

【4】高石先生ご退職のお知らせ

長年にわたり、旧留学生センターでご活躍された高石道明先生が、平成18年3月をもって信州大学を離れられました。★

ご退職にあたり、留学生OB/OGの皆様に向けてのメッセージをお預かりしていますので、以下にご紹介いたします。

▽ 東アジア共同体をめざす教育・研究協働 (2006.3.22 高石 道明)

信州大学の国際交流を扱う組織が、来月4月に新しくなります。大学全体の国際交流を一本の大きな柱でまとめようとするものです。2003年に行った留学生センターの外部評価でも指摘されていたことが、ようやく実現します。

信州大学はその理念に「世界の多様な文化・思想の交わる場所であり、それらを理解し受け入れ共に生きる若者を育てる」とことと、「信州大学で学び、研究する我々は、その成果を人々の幸福に役立て、人々を傷つけるためには使わない」ことを宣言しています。大学の国際的な使命を改めて深く考えるべきときです。

12世紀にヨーロッパに誕生した大学は、最初から国際的な存在でした。優れた学者がいたイタリアの都市に、教えを乞う学生がヨーロッパ中から集まって自然に出来たのでした。その後、自国の学生をかかえこむ近代の国民国家の時代を経て、再び今日の国際的な大学が求められる時代になったといえないでしょうか。教育とりわけ高等教育がサービス貿易の商品のひとつとしてとらえられていることも、そのあらわれです。そのような状況の中で、信州大学や日本の大学はどのようなポリシーをもつべきでしょうか。

私は、東アジア共同体をめざして、教育と研究面の幅広い協働が求められると考えます。東アジア共同体の実現可能性については様々な議論がありますし、短時間に出来るものとは思いません。しかしこれは追い求めるべき素晴らしい理想だと思います。経済的な結びつきの面では、域内の貿易・資本移動は極めて大きくなっていますが、我々は学生や研究者の移動をますます盛んなものにしなければならないと思います。

信州大学が門戸をさらに広く開いて、教育と研究の環境を国際的な評価に耐えうるものに変えてゆくことを期待しています。アジアの共通の課題に協働して取り組む中心に大学がいることが、東アジア共同体への道を近づけることになると思います。

信州大学に来て5年余り、素晴らしい留学生諸君と共にした経験は忘れられません。退職に当たって皆さんのますますの発展と健康を祈っています。



【5】信州生活ちょっとコラム（生活編）



▽ 「花火の音でお知らせ」システム

信州に住んでまる2年。まだまだわからないことだらけの編集人です。その私のいまだ理解できない「？」の一つをご紹介します。

松本に暮らしていると、やたらとポーンポーンと花火の音が聞こえる。住んだことのある皆さん、そう思ったことはありませんでした？花火と言ってももちろん見て楽しむ打ち上げ花火じゃありません。音だけのいわば「お知らせ」花火です。これがほんとによく上がるんです。朝だろうと、昼だろうと、夕方だろうと。

打ち上げの主は、寺社や地域、学校などが多らしく、お知らせの内容は「今日はお祭りだよー」とか「運動会やりますよー」などなど。聞くところによると、昔は温泉街の旅館に大人数の団体が入ったときなんかにも上がったとか。へえええええ…！

住民へのお知らせといえば、有線放送や広報車での呼びかけなど、地域によっていろんな方法が使われていると思いますが、花火の音でのお知らせとは東京に長く住んだ私には、すごく変わった方法だなあ…と。

だって「花火でお知らせ」システムの難点は、音が全く同じなんです、花火の。つまり、私のような New Comer には、それが何を「お知らせ」する花火なのか、さっぱり見当がつかないのです。だけど、これが地元の人々、特に年配の方々には不思議と分かるんですね。日時、音の聞こえた方角と遠さなどから「あー、今日はあれね」となんとなく分かるらしい。すごい…。

長年の経験の共有によって成り立っている、便利なような分かりにくいような、不思議なこのシステム。信州独特の文化の一つと言えるのでは、と思っています。私が「信州人」になるには、まだまだ長い修行が必要なようです。（^_）

□配信元：信州大学国際交流センター(SUIC) 文責：飯沼
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
Tel: 0263-37-2865 / Fax: 0263-37-2181
<http://isc.shinshu-u.ac.jp/flashindex.htm>

□連絡先：iad@shinshu-u.ac.jp

- ・ 各種お問い合わせ
- ・ 配信停止希望
- ・ メールアドレスの変更のご連絡
- ・ 情報掲載のご希望
- ・ ご意見、ご感想 …など